

「次代を担う組織・人材のためのPPP/PFI研修」開催案内

インフラ・公共施設の老朽化や対応する行政職員の不足等が進行し、戦略的なマネジメントが求められる中、PPP/PFIを活用した官民連携の推進が一層求められています。

今回の研修では、ボトムアップで官民連携を実践した行政職員・行政経験のある方々による実体験を元にした連続講義に加え、自らトップダウンで組織改革を実施した首長と有識者による講義とトークセッションを実施します。

PPP/PFIへの抵抗感を払拭し、成長マインドセットへの転換を目指そうとする方をはじめ、多くの方々のご参加をお待ちしております！

開催概要

- 日時 ①ボトムアップ編：令和7年7月7日（月） 13：30～16：00 ※13:10から入室開始
②トップダウン編：令和7年7月29日（火） 13：30～15：30 ※13:10から入室開始
- 開催方法 WEB（Zoom）会議
- 参加対象 主として全国の地方公共団体職員
①ボトムアップ編：主に担当者クラス ②トップダウン編：主に幹部職クラス
※接続数の上限以内で民間事業者等の参加も可能（応募多数の場合は抽選）

プログラム

※プログラムは予告なく変更する場合があります。

● ①ボトムアップ編【令和7年7月7日（月）13：30～16：00】

予定時間	内容
13:30～14:10 (40分)	「生きる手段としてのPPP/PFI～Next PPP/PFI～」 合同会社まちみらい 代表社員 寺沢 弘樹 氏
14:10～14:50 (40分)	「これからの時代に必要な公共施設マネジメント」 合同会社コトプレイス 代表社員 川口 義洋 氏
14:50～15:00	(休憩)
15:00～15:20 (20分)	「実務担当者が担う役割と心構え」 山口県周南市 都市整備部公園花とみどり課 赤松 透 氏
15:20～15:40 (20分)	「中堅職員主体による事業推進～道の駅おとふけ移転整備事業を通じて～」 北海道音更町 経済部 商工観光担当部長 月居 謙介 氏
15:40～16:00 (20分)	「小規模自治体におけるPPP/PFIの課題と実現に向けて」 福岡県行橋市 市長公室長 鶴 裕之 氏

● ②トップダウン編 【令和7年7月29日（火）13：30～15：30】

予定時間	内容
13:30～14:00 (30分)	基調講演「PPPに必要な人材の素養と人材を生かす組織の在り方」 東洋大学 名誉教授 根本 祐二 氏
14:00～14:25 (25分)	「真の官民連携を推進する組織づくり～前例主義と仕様発注からの脱却～」 山口県山陽小野田市 市長 藤田 剛二 氏
14:25～14:35	(休憩)
14:35～15:00 (25分)	「三重県桑名市における公民連携成功の鍵～自治体をマネジメントする～」 三重県桑名市 市長 伊藤 徳宇 氏
15:00～15：30 (30分)	トークセッション ・東洋大学 名誉教授 根本 祐二 氏 ・山口県山陽小野田市 市長 藤田 剛二 氏 ・三重県桑名市 市長 伊藤 徳宇 氏

【事務局・お申込みに関する問い合わせ】

株式会社 YMFG ZONEプランニング（担当：植木、富原、藤岡）
TEL:083-223-4202、E-mail：ppppfi_bpf@ymfg.ym-zop.co.jp

【本研修の内容に関する問い合わせ】

国土交通省総合政策局社会資本整備政策課（担当：小林、高木、市岡）
TEL：03-5253-8981（内線：24226）、E-mail：hqt-PPP_PFI_bpf@gxb.mlit.go.jp

講演内容の紹介

「生きる手段としてのPPP/PFI～Next PPP/PFI～」

登壇者 **合同会社まちみらい 代表社員 寺沢 弘樹 氏**

ながれやま

- 2001年から流山市役所を15年間勤め、2016年には特定非営利活動法人日本PFI・PPP協会に所属。多くの地方公共団体・民間事業者によりPPPの普及・啓発を行う。
- 2021年に合同会社まちみらい代表社員として自治体経営・PPP/PFI・公共施設マネジメントの支援を中心に各自治体のアドバイザー業務等を展開。
- 地方公共団体職員としての実務経験と現職のアドバイザーとして携わった事業の支援実績の両面を踏まえ、庁内体制の構築や庁内・議会での合意形成を図る上でのポイントを説明。



「これからの時代に必要な公共施設マネジメント」

登壇者 **合同会社コトプレイス 代表社員 川口 義洋 氏**

つやま

- 1999年津山市役所に入庁後、建築専門職として主に公共施設の整備などを担当。2015年FM部門に異動後は、建築的な視点から公共施設マネジメントに取り組み、公民連携など多くの事業を実践。2025年に津山市を退職し、現職。
- 旧荻田家付属町家群（城下小宿 荦や）や旧グラスハウス（Globe Sports Dome）のコンセッション事業を主導。
- 庁内のハブ役となり、各部署が単発で事業を進めるのではなく、全体を俯瞰して優先順位を定め段階的に進めていく「舵取り」等について説明。

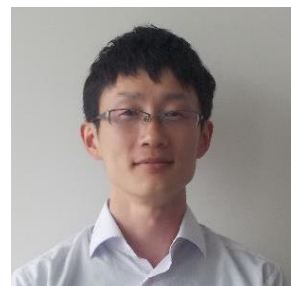


「実務担当者が担う役割と心構え」

登壇者 **山口県周南市 都市整備部公園花とみどり課 赤松 透 氏**

しゅうなん

- 2009年周南市役所に技術職員（土木）として入庁後、（一財）地域総合整備財団へ出向、PPP/PFI等の手法を学び、以後、市が実施するPPP/PFIや関連業務に主担当者として多数従事。
- 小学校への空調整備事業や都市公園の整備管理運営事業（PFI事業）公園の利活用に係る社会実験（トライアルサウンディング）などを実施。
- 人口約13万人の自治体規模でPPP/PFIの取組を通じて経験したこと、担当者目線から取組を進めるに当たって必要だと思うことについて説明。



「中堅職員主体による事業推進～道の駅おとふけ移転整備事業を通じて～」

登壇者 **北海道音更町 経済部 商工観光担当部長 月居 謙介 氏**

おとふけちよう

つきより

- 1997年音更町役場に入庁後、福祉、財政、総務、農政部門を経験し、2019年から道の駅おとふけ移転整備を担当。
- 庁内外関係組織の連携を密に取りながら、DBO、指定管理者制度により道の駅の整備運営を行う「音更町道の駅整備事業」において、プロジェクトチームの旗振り役として事業を推進。
- 中堅職員が主体となって、小規模自治体でPPP/PFIに取り組む上で直面した課題や、どのように克服したのか等を説明。



「小規模自治体におけるPPP/PFIの課題と実現に向けて」

登壇者 **福岡県行橋市 市長公室長 鶴 裕之 氏**

ゆくはし

- 行橋市役所に入庁後、数々の企画立案に携わる中でPFI事業の不調を経験し、人口10万人以下の小規模自治体で成立するPPP/PFI事業スキームを検討。
- 「行橋市図書館等複合施設整備事業」において企画立案の役割を担い、関係部署と連携しながら事業を推進。
- 人口減少局面が進む地方都市におけるPPP/PFIの必要性や、組織内での合意形成、住民、議会との合意形成などをクリアするために必要なマインド等について説明。



登壇者の紹介

基調講演「PPPに必要な人材の素養と人材を生かす組織の在り方」

登壇者 東洋大学 名誉教授 根本 祐二 氏

- 日本政策投資銀行地域企画部長を経て、2006 年東洋大学経済学部教授に就任。民間資金等活用事業推進委員会委員長代理、官民連携事業推進検討委員会委員長等公職を歴任。
- 専門は、公民連携、地方創生、インフラ等。
- 令和7年7月 現職就任。
- PPPは行政、財政、金融、経営、会計、法律、建築、都市計画、土木等の専門分野を横断し相互に矛盾なく組み立てるべきものだが、産官学すべて縦割りの日本社会においては困難に直面することも多い。PPPを成功させるために必要な人材、組織はいかにあるべきかを考察する。



「真の官民連携を推進する組織づくり～前例主義と仕様発注からの脱却～」

登壇者 さんようおのだ 山口県山陽小野田市 市長 藤田 剛二 氏

- 東京理科大学工学部卒業、ノースイースタン大学情報修士課程修了。NTTデータや富士商での勤務を経て、2017年に山陽小野田市市長に初当選。現在3期目を務める。
- 市長就任以来、「協創」の理念の下、地域の未来を見据えた持続可能なまちづくりを推進するため、官民連携や関係人口の創出、生成AIを活用した業務の効率化等に精力的に取り組んでいる。
- LABVプロジェクト、地区運営協議会（RMO）組成による地域づくりの新たな仕組みづくり、クラウドファンディングの仕組みを活用した「協創によるまちづくり提案事業」等の施策を通じて、多様な主体との協創によるまちづくりを進めている。
- 2020年、企画課内に「PPP/PFI推進室」を設置。組織として官民連携に前向きに取り組んでいくことを示したことで、庁内の意識向上と体制強化を図った。



主な取組 山陽小野田市LABVプロジェクト

- 国内初のLABV手法により、中心市街地エリアの複数の事業候補地における施設整備や利活用を連鎖的に進め、居住・交流人口の増加や活気を生み出すための官民連携（産学官金）によるまちづくりを目指す取組。



「三重県桑名市における公民連携成功の鍵～自治体をマネジメントする～」

登壇者 くわな 三重県桑名市 市長 伊藤 徳宇 氏

- 早稲田大学政治経済学部を卒業。平成18年に桑名市議会議員に初当選。平成24年に桑名市長選で初当選し、現在4期目。
- 官民連携の可能性を模索し、桑名市役所に新たな風を吹き込むべく様々な施策を展開。平成28年には、公民連携を進めるためのワンストップ対話窓口「コラボ・ラボ桑名」を開設し、これまでに391件もの民間提案を受け付け、そのうち112件（令和6年度末時点）を実現させ、市政運営の変革（PX：パブリックトランスフォーメーション）を追求している。
- 「コラボ・ラボ桑名」での民間対話を通して、民間の高い提案力を引き出すことができるプロポーザル方式により、事業を多数実施。行政の課題に対して民間ノウハウとスピード感を活かした解決策を次々と生み出し、地域の活性化を進めている。

主な取組 桑名市健康増進施設「神馬の湯」

- 市町合併以前から事業構想があった健康増進施設の建設を、「コラボ・ラボ桑名」での民間対話を通じて民設民営で実現。市は、歳出削減により得られた財源を他の事業に効果的に配分することで、市民サービスの充実や新たな事業への投資が可能となった。

